

JAふくしま未来 福島地区本部 【果樹防除情報 6月号】

ふ未福営発第240号  
令和3年5月28日

○もも⇒穿孔細菌病 ○なし⇒黒星病 ○りんご⇒腐らん病 に注意してください。  
発生状況をよく確認の上、発病している場合は耕種的防除を必ず実施し薬剤散布を行って下さい。

【住宅に隣接している園での散布時間帯については、早朝5時以降開始にご協力ください。また、通勤や通学の時間帯も避けてください。】

☆「なし」の6月防除については、別紙をご確認ください☆

【 も も 】(防除暦 28～29頁参照) 注意事項:展着剤は、各樹種共通でアイヤーエース10,000倍(10cc)又はラビデン3S 10,000倍(10cc)を使用する。

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量	
※灰星病・ホモプシス腐敗病の重要防除期となるので、散布量はSS、手散布ともに400ℓ以上とする。 ※せん孔細菌病・すすかび病・果実赤点病の感染期に入るので、有袋栽培の場合は散布後すみやかに被袋すること。					
8	6/10頃	せん孔細菌病・黒星病・灰星病 ホモプシス腐敗病・果実赤点病・すすかび病 (ハマキムシ類)(シンクイムシ類)	1. 展着剤 2. マイコシールド 2,000倍 (50g) 3. ダコレート水和剤 1,000倍 (100g)	400ℓ	
		1. シンクイムシ類の発生が多い場合は、ダズバンDF3,000倍(33g)も使用する。但し、収穫前14日なので早生種には注意する。 2. モモシンクイガの発生が多い園では、バイオセーフを使用する。使用にあたっては17ページを参照する。(土壌かん注) ②マイコシールドは収穫前21日なので、早生種(はつひめ・日川白鳳・暁星)はマイコシールドにかえて、 デランフロアブル(収穫前7日)600倍(165cc)を使用する。			
9	6/20頃	黒星病・灰星病・ホモプシス腐敗病 果実赤点病・すすかび病・(せん孔細菌病) (シンクイムシ類)(ハダニ類)	1. 展着剤 2. ベルクート水和剤 1,000倍 (100g)	400ℓ	
		1. せん孔細菌病の発生が見られる園ではバリダシン液剤500倍(200cc)も使用する。なお、菊の隣接園ではバリダシン液剤に替えてスターナ水和剤1,000倍(100g)を使用する。但し、両剤とも早生種には使用しない。 2. シンクイムシ類の発生が多い場合はダズバンDF3,000倍(33g)も使用する。但し、収穫前14日なので早生種には使用しない。 3. ハダニ類の発生が見られる場合は、アカリタッチ乳剤2,000倍(50cc)も使用する。なお、卵には効果がないので、今回散布5～7日後にも散布する。散布の際は展着剤は使用しないこと。また、梨の隣接園では飛散しないよう注意する。			
10	6/30頃	灰星病・果実赤点病・すすかび病 シンクイムシ類・モモハマグリガ アブラムシ類 (せん孔細菌病)	合ピレ剤使用可能地域 1. 展着剤 2. ナリアWDG 2,000倍 (50g) 3. アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯) 1. 展着剤 2. ナリアWDG 2,000倍 (50g) 3. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g)	400ℓ
		1. せん孔細菌病の発生が見られる園ではデランフロアブル600倍(165cc)も使用する。但し、早生種には使用しない。 2. ナリアWDGはピオーネ、ル・レクチェに薬害を生ずる恐れがあるので、注意して散布する。			

【 り ん ご 】(防除暦 52～53頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量	
今回以降、褐斑病、輪紋病、炭そ病等の重要防除時期に入るので、10a当り500ℓ、また散布間隔を10日以上あけずムラなく散布すること。					
6	6/8頃	斑点落葉病・輪紋病 黒星病・褐斑病・炭そ病 シンクイムシ類・キンモンホソガ ギンモンハマグリガ・カメムシ類 アブラムシ類・リンゴワタムシ クワコナカイガラムシ	合ピレ剤使用可能地域 1. アビオンE 1,000倍 (100cc) 2. オキシラン水和剤 500倍 (200g) 3. モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g) 【カルシウム剤】	合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯) 1. アビオンE 1,000倍 (100cc) 2. オキシラン水和剤 500倍 (200g) 3. アドマイヤー水和剤 2,000倍 (50g) 4. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g) 【カルシウム剤】	500ℓ
		1. モモシンクイガの発生が多い園ではバイオセーフを使用する。使用にあたっては17ページを参照する。(土壌かん注)			
7	6/18頃	斑点落葉病・黒星病・輪紋病 すす点・すす斑病・褐斑病 うどんこ病・モニリア病・(カイガラムシ類) (リンゴワタムシ)(ハダニ類)	1. アビオンE 1,000倍 (100cc) 2. オーツサイド水和剤 600倍 (165g) 3. ユニックス顆粒水和剤 2,000倍 (50g) 【カルシウム剤】	500ℓ	
		1. カイガラムシ類、リンゴワタムシの発生が多い場合は、ダズバンDF3,000倍(33g)も使用する。ただし、年1回収穫前45日なので注意すること。 2. ユニックス顆粒水和剤は、オウトウに対しては薬害を発生するおそれがあるので、付近にある場合はかからないように注意する。 3. ハダニ類の発生が多い場合は、アカリタッチ乳剤2,000倍(50cc)も使用する。但し、アビオンEは使用しない。また、今回散布後5～7日後にも散布する。但し、展着剤は使用しないこと。			
8	6/28頃	斑点落葉病・輪紋病・褐斑病 炭そ病・黒点病・黒星病 すす点・すす斑病 シンクイムシ類・キンモンホソガ アブラムシ類・ハマキムシ類・(ヒメボクトウ)	合ピレ剤使用可能地域 1. アビオンE 1,000倍 (100cc) 2. キノンドー顆粒水和剤 1,000倍 (100g) 3. ベルクート水和剤 1,000倍 (100g) 4. アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯) 1. アビオンE 1,000倍 (100cc) 2. キノンドー顆粒水和剤 1,000倍 (100g) 3. ベルクート水和剤 1,000倍 (100g) 4. オリオン水和剤 1,000倍 (100g)	500ℓ
		1. ヒメボクトウの発生が多い園では、フェニックスフロアブル4,000倍(25cc)を枝幹部に散布する。			

【ぶどう】(防除暦 125~127頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
6	6月上旬 満開後	灰色かび病・黒とう病・べと病 晩腐病・褐斑病・さび病 チャノキイロアサミウマ・ハダニ類 フタテンヒメヨコハ・イ・フトウサヒ・タニ ※「あづまじく」は、コテツフロアブルにかえてアトマイヤー顆粒水和剤 1万倍(10g)を使用する。	1. ジマンダイセン水和剤 1,000倍 (100g) 2. スイッチ顆粒水和剤 2,000倍 (50g) 3. コテツフロアブル 2,000倍 (50cc)	200ℓ
晩腐病感染防止対策として、紙傘かけを実施する。				
7	6月中旬 幼果期 【今回の散布時期は、果粒が小豆程度以下の大きさで散布する】	黒とう病・晩腐病 べと病・褐斑病 さび病 チャノキイロアサミウマ クビアカスカシバ類 コガネムシ・ケムシ類 (クワコナカイガラムシ若齢幼虫) (ハマキムシシ類) (アブラムシ類)	1. ストロビードライフフロアブル 2,000倍 (50g) 2. テツパン液剤 2,000倍 (50cc) ※種なし品種については、第2回目ジベレリン処理前に散布する。 ※合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯)では、テツパン液剤 2,000倍(50cc)にかえて、ダイアジノン水和剤1,000倍(100g)を使用する。	200ℓ
8	6月下旬	晩腐病・褐斑病 黒とう病・さび病 灰色かび病・うどんこ病 (チャノキイロアサミウマ)(カイガラムシ類)	1. オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50cc) ※チャノキイロアザミウマの発生が多い場合には、コルト顆粒水和剤3,000倍(33g)も使用する。	200ℓ

【おうとう】(防除暦 146~147頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
7	収穫直前 6/5頃	灰星病 オウトウシヨウジョウバエ ハマキムシ類	1. ロブラール500アクア 1,500倍 (65cc) 2. ディアナWDG 1万倍 (10g) 3. まくぴか 5,000倍 (20cc)	300ℓ
8	6/12頃 (晩生種)	灰星病 オウトウシヨウシヨウハエ	1. インダーフロアブル 5,000倍 (20cc) 2. アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g) 3. まくぴか 5,000倍 (20cc) ※合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯)では殺虫剤の使用はしないこと。	300ℓ
特別散布	6月中旬~ 下旬(種晩生種)	オウトウシヨウシヨウハエ	1. スカウトフロアブル 3,000倍 (33cc) 2. まくぴか 5,000倍 (20cc) ※合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯)では殺虫剤の使用はしないこと。	300ℓ
9	収穫直後	褐色せん孔病 アメリカシロヒトリ ハマキムシ類	1. 展着剤(ラビデン3S) 2. チオノックフロアブル 500倍 (200cc) 3. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g) 1. アメリカシロヒトリの発生が多い場合は、ダイアジノン水和剤にかえてフェニックスフロアブル4,000倍(25cc)を使用する。	500ℓ

【かき】(防除暦 157頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
4	6/15頃 落葉病の 重要防除時期	落葉病・イラガ類 カメムシ類・フジコナカイガラムシ アメリカシロヒトリ・(アザミウマ類)	1. 展着剤 2. チオノックフロアブル 500倍 (200cc) 3. スミチオン乳剤 1,000倍 (100cc) ※前年、カイガラムシ類、スリップス類の発生が多い園では、コルト顆粒水和剤3,000倍(33g)を使用する。	400ℓ
5	6/30頃 落葉病の 重要防除時期	落葉病・炭そ病・すす点病 アザミウマ類 カイガラムシ類・(ハマキムシ類)	1. 展着剤 2. ナリアWDG 2,000倍 (50g) 3. スプラサイド水和剤 1,500倍 (65g) ※カイガラムシ類(ロウムシ)の発生が多い園では、今回散布1週間後にダイアジノン水和剤1,000倍(100g)を使用する。	400ℓ

【すもも】(防除暦 169頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
5	6/10頃	炭そ病 モモノゴマダラノメイガ アブラムシ類・シンクイムシ類	1. 展着剤 2. ストロビードライフフロアブル 2,000倍 (50g) 3. バリアード顆粒水和剤 4,000倍 (25g) ※合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯)ではバリアード顆粒水和剤にかえてオリオン水和剤 1,000倍(100g)を使用する。	300ℓ
6	6/20頃 大石早生収穫直前	灰星病・(モモシンクイガ)・(ハダニ類)	1. ロブラール水和剤 1,500倍 (65g) 1. ハダニ類の発生密度が低い時期に今回以降タニゲッターフロアブル2,000倍(50cc)も使用する。 2. モモシンクイガの発生が多い園ではバイオセーフを使用する。(防除暦17ページ参照)	300ℓ
7	6/30頃	灰星病 シンクイムシ類	1. オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50cc) 2. スカウトフロアブル 2,000倍 (50cc) 1. 合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯)では、スカウトフロアブルにかえて、オリオン水和剤1,000倍(100g)を使用する。	300ℓ

【うめ】(防除暦 179頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
特別散布	収穫直前 6/5頃 (高田梅)	黒星病 灰色カビ病	1. 展着剤 2. インダーフロアブル 5,000倍 (20cc)	350ℓ

【ネクタリン】(防除暦 190~191頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
8	6/10頃	灰星病・黒星病・シンクイムシ類 ハマキムシ類・アブラムシ類・カイガラムシ類 (モモシンクイガ)・(せん孔細菌病)	1. 展着剤 2. ダコニール1000 1,000倍 (100cc) 3. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g) 1. モモシンクイガの発生が多い園では、バイオセーフを使用する。(防除暦17ページ参照。) 2. コスカシバの発生が多い園では、バイオセーフを使用すると効果が高い。(防除暦17ページ参照。) 3. せん孔細菌病の発生が見られる園では、スターナ水和剤1,000倍(100g)も使用する。	300ℓ
9	6/20頃	灰星病・黒星病 ホモブシス腐敗病・(シンクイムシ類)	1. 展着剤 2. ベルクートフロアブル 1,500倍 (65cc) ※シンクイムシ類及びハマキムシ類の発生が多い場合は、ダズバンDF3,000倍(33g)も使用する。また、ダズバンDFは収穫前14日前までなので遅れないように散布する。	300ℓ
10	6/30頃	灰星病・黒星病・ホモブシス腐敗病 モモハモグリガ・シンクイムシ類 アブラムシ類・カメムシ類	1. 展着剤 2. ナリアWDG 2,000倍 (50g) 3. アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g) 1. 合ピレ剤使用規制地域では、アルバリン顆粒水溶剤にかえて、ダイアジノン水和剤1,000倍(100g)も使用する。早生種には使用しない。 2. ナリアWDGはピオーネ、ル・レクチェに葉害を生ずる恐れがあるので、注意して散布する。	300ℓ

※表中の日付は果樹研究所(飯坂町平野)を基準にしております。各園地との差異を考慮して、適期防除に努めてください。

☆農薬散布は、無風又は風の弱いときに行うなど、近隣に影響の少ない天候の良い日を選んで散布しましょう。  
散布時間帯についても通学や出勤時間帯は避け、住宅地に混在している園地では十分注意して散布をお願い致します。また、希釈倍数・散布量・散布時期(収穫前日数)にも十分注意してください。

※不明の点がありましたら、担当営農指導員にお問い合わせください。